

吉川育英会だより

～友の会（OB会）会員と現役奨学生からの近況報告～

Vol.5

備えあるところに チャンスは訪れる



ロ ホウ
呂 芳（中国）
九州大学 大学院



スカイツリーを訪れた呂さん

私は平成20年から2年間、吉川育英会様からご支援していただきました。お陰様で、その間は安心して研究に集中することができ、目標にしていた博士課程を修了することができました。心から感謝しております。

吉川育英会では奨学金をいただくだけでなく、毎月の「奨学生の集い」で他国の留学生たちとの交流を持てたことは貴重な財産となっています。

特に印象深かったのは新日鐵住金株式会社八幡製鐵所の熱延工場を見学できた時でした。真っ赤な鉄の塊がローラーを通過するたびに薄く延ばされていく様子は壮観で印象深いものがありました。

又、見学当日は30°以上の真夏日でしたが、工場の中は更に熱くその中で機敏に働く社員の皆さんに感動しました。5年を経過しましたが、今でもその情景が目に残ります。

吉川育英会を修了した後、5年以内に博士の学位をとることを皆さんに誓いました。そして、その後は日本の大学で中国語の講師になるか、又は中国の大学で日本語の講師になるかいずれか達成することを目標としていますと申しあげました。

その結果、目標通り博士学位を取って、今年の4月から、日本の大学で中国語を教えることになりました。吉川育英会様をはじめ、色々な方に支えて頂きましたが、自分自身で目標をもって努力してきたつもりです。

英語で「Chance favors the prepared mind」という諺があります。

日本語に訳すと、「備えあるところにチャンスは訪れる」となります。このことわざ通り、明確な目標をたてて、それに向かって努力すれば結果は必ずついてくると信じております。現役の奨学生のみならず、目標に向かって頑張りましょう。努力はきっと報われます。



中国語教室で授業を行う呂さん

多様な価値観をもった人生



リュウキ
劉奇（モンゴル）
九州国際大学 大学院

私は来日して、八年を経過しました。現在は株式会社九州ハセックというカップリング（動力軸継手）を専門に製造するメーカーに勤めています。入社して三年目を迎えます。

社会人になる前の留学生生活を振り返るとあっという間の六年間だったように思います。2年間吉川育英会様から奨学金をいただき、経済的に本当に助かりました。心から感謝申し上げます。

私は内モンゴルの出身ですが、現地における個人の経済力はまだまだ厳しく、収入は日本と比べると十分の一ぐらいと言っても過言ではありません。そのような環境の中にありながら、両親は私の将来のために全財産をかけて、日本に留学させてくれました。私はいつかこの御恩返しをしなければと思っています。



カップリング



お寺を訪れた劉奇さん

奨学金をいただいている時は勉強に集中できましたが、そうでない時は学費を得るためのアルバイトに追われ、疲れながらなんとか授業と両立させていました。私のような留学生は今も少なくないと思います。どうか、今後も厳しい経済環境にある留学生を支援していただきますようお願いいたします。

私は社会人として日本の企業で働く中で、色々なことを学んでいるところです。例えば、学生時代は幸福になるためには将来お金を稼ぐことが全てであると考えていました。しかし、今はそれが全てではないと思うようになりました。収入を得ることは大切なことですが、それ以外に大切なことがたくさんあると思います。

後輩の皆さん、経済的に厳しい中にあると、収入のことを優先的に考えがちですが、多様な価値観をもって生き方を考えることも大切なことです。色々なことを経験し、学びながら前進してもらいたいと思います。私自身の経験からアドバイスさせてもらいました。少しでも参考にしてもらえれば、うれしく思います。

留学生のみならず、これからも頑張ってください。

事務局より
平成20年に友の会が発足して、5回目のおたよりです。
今後も、会員のみならずの近況をお知らせしてまいりたいと思っています。

モンゴルの環境問題へ貢献



オドゴンバイラル
エンフツォルモン（モンゴル）
北九州市立大学 大学院

博士後期課程に進学してからは研究が忙しくなったため、アルバイトをする時間がなくなり生活が困難になったときに吉川育英会様に支援して頂き、研究生生活を続けることができました。私も両親も心から感謝しています。又、吉川育英会の活動の中で他国の留学性と交流できたことも収穫のひとつです。そして工場見学や環境活動などの行事に参加し、学ぶと共に楽しい思い出づくりができました。毎月開催される「奨学生の集い」で発表される奨学生のスピーチは興味があり、研究情報の交換もできて良い勉強になりました。



私の発表スピーチが吉川育英会のホームページに掲載され、それが信州大学の研究チームの目にとまり、共同研究の意見交換ができたことは大変嬉しく思いました。今は共同研究の現地調査が始まり、信州大学の水口教授が研究している技術を用いてウランバートル市の大気汚染対策に関する実験をすることになっています。私はウランバートル市の大気汚染の原因となっている、石炭ストーブからの大気汚染物質の排出量を削減することを目標に研究を進めています。そのために費用便益分析や現地調査等を行なっています。モンゴルの首都ウランバートル市

研究室の皆さんとモンゴルの現地調査は、世界一大気汚染問題が深刻だとされている都市です。冬季のPM10、PM2.5の濃度はモンゴル大気環境基準の3倍から6倍にまで至っています。このような厳しい環境下に暮らしている子供達のために自分のできる事があれば貢献したいとの思いから日本に留学しました。希望通り北九州市立大学大学院に入学し、国際的な環境問題や途上国で多く起きている環境問題の解決方法、環境モデル都市

である北九州市の水処理、廃棄物、リサイクル、循環型社会システム等を学ぶことができたことは大変良い経験になっています。モンゴル科学技術大学やモンゴル国立農業大学と私が所属する研究室はMOU（研究交流協定）を締結しており、大気汚染、廃棄物、都市計画等に関して、研究遂行に必要な協力関係を構築しています。卒業後もモンゴルと日本の国際環境交流の発展のために尽力してまいります。夢や目標のために日本で勉強している多くの留学生に対して優しい心で迎え入れ、支援していただいている吉川育英会様に心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。



モンゴル国立農業大学と研究室の研究交流協定（写真一番右がオドゴンバイラルさん）